

「第1回ゼロ・ウェイストを考える会」を開催しました

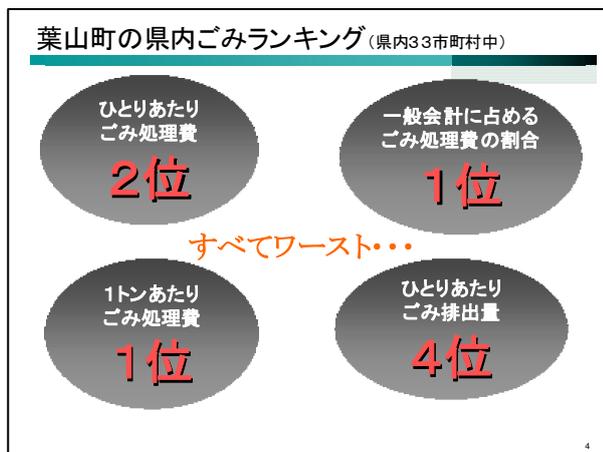
8月23日(土)、葉山町福祉文化会館大会議室にて、「第1回ゼロ・ウェイストを考える会」を開催しました。町内外から90名近い参加者があり、森町長自ら、葉山町のごみの現状とゼロ・ウェイストの趣旨について、お話しさせていただきました。概要は以下のとおりです。

[当日の配布資料 \(PDF 43KB\)](#)

<内容紹介>

1. 葉山町のごみの危機的状況 (森町長)

まず、町のごみの深刻な事情を知っていただくところから話を始めました。葉山町は、神奈川県33市町村中、一般会計に占めるごみ処理経費の割合1位、ひとりあたりごみ処理経費2位、1トンあたりごみ処理経費1位、ひとりあたりごみ排出量4位(すべて平成18年度)となっています。クリーンセンターの老朽化、燃料価格の高騰、委託処理の増大など、様々な問題を抱える中、町のごみ処理に抜本的な改革が求められているということ、そのために必要なのはごみの高度処理ではなく、徹底的な資源化減量化であり、その鍵となるのが、国内外で実践されている「ゼロ・ウェイスト」という政策であることをお話ししました。



2. ゼロ・ウェイストとは? (森町長)

「ゼロ・ウェイスト」とは、英語で「ごみや無駄をゼロにする」という意味で、オーストラリアから世界に広まったごみの大減量化政策を指します。今の時代、「ごみゼロなど理想論では?」という批判もありますが、ゼロ・ウェイストで大事なものは「ゼロにすることが可能かどうか」ではなく「ゼロに向かって行動を始めること」であり、その過程で大きな成果と利益が生み出されます。

葉山町のごみは、現在 80%が焼却されており、リサイクル率は 16%にとどまっていますが、焼却されている家庭ごみの組成を見ると、7~8 割は資源化可能な生ごみ・紙・布・草木類などです。ひとりあたりのごみ量で比較すると、葉山の半分以下までごみを減らしている自治体もたくさんあり、葉山でも、適切な施策を組むことによって、十分にごみ量を減らすことが可能です。

ゼロ・ウェイストとは？

Zero Waste

ゼロ (zero) = 「ゼロ」

ウェイスト (waste) = 「ごみ・無駄・浪費」

英語で「**ごみや無駄をゼロにする**」の意味

- ・ オーストラリア発のごみの減量化政策
- ・ 世界でごみ減量に成功する自治体が続出→世界が注目
- ・ 日本では、徳島県上勝町（2003年）、福岡県大木町（2008年）が宣言済

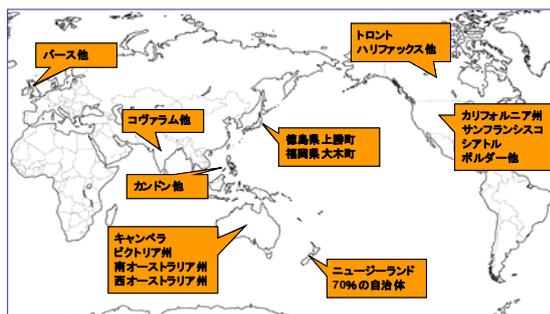
11

3. ゼロ・ウェイスト事例紹介（環境課）

ゼロ・ウェイストの世界的な広がりについてご紹介するとともに、葉山町の姉妹都市であるホールドファストベイ市でも、州のゼロ・ウェイスト方針を受け、昨年から目覚ましい減量成果を出していることをお伝えしました。

また、先進地視察報告として、日本初のゼロ・ウェイスト宣言自治体である徳島県上勝町の例をご紹介しました。「危機を転じて」わずか数年の間に分別先進地に大転換を果たした上勝町では、現在、すべての生ごみを自家処理しています。ごみの収集はなく、町に1カ所のステーションに町民が自らごみを持ち込むなど、非常にユニークな方式により、驚異の 34 分別、リサイクル率 80%が実現しています。「分かりやすい分別のための工夫」など、随所に見られる柔軟な発想を、葉山町の今後の施策にも生かしていきたいと考えています。

世界に広がるゼロ・ウェイスト



21

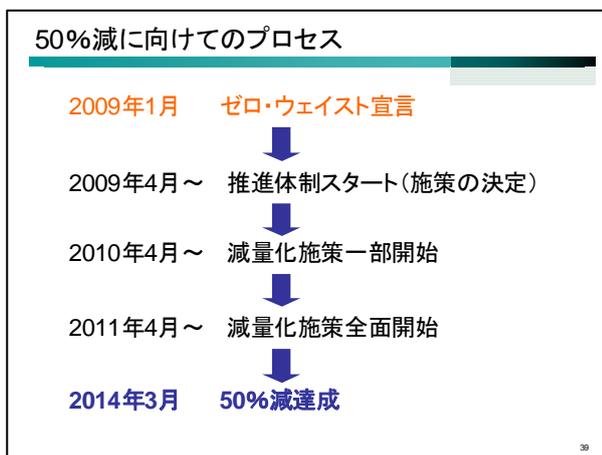
4. 具体的な目標と見通し～実現に向けて（森町長）

20年後のゼロ・ウェイスト達成に向け、葉山町ではまず、5年後までに焼却・

埋立の 50%減を目指していきます。現在、来年 1 月のゼロ・ウェイスト宣言に向けて準備中であり、4 月からスタート予定の推進体制の中で、分別品目、収集体制、保管施設の整備、経済的インセンティブ、生ごみ資源化、事業系廃棄物、各種資源化支援策など各項目の検討を進めていきます。その間、焼却を外部委託した場合の費用増の懸念や、ごみ処理経費の内訳と今後の方向性などについて、数字を交えながらお話ししました。

町民の方々には、分別の更なる強化など、様々な参画をしていただくこととなります。行政として、分かりやすく利用しやすいシステム、努力が正当に報いられる仕組みを構築し、きめ細やかなフォロー体制などにより、「負担感」よりも「意識

の変化」を促せるような体制を目指したいと考えています。最終的には「環境先進地」として、真のゼロの実現に向け、拡大生産者責任やデポジット拡大など広くメッセージを投げかける役割を担い、「たとえごみがゼロにならなくても」社会的な努力を続けていくことが期待されるとご説明しました。



5. 質疑応答

会場からは、時間を大幅にオーバーして、熱心なご質問・ご意見を数多くいただきました。

「ゼロ・ウェイストは長期政策だが、森町長の任期中にどこまで責任ある施策とできるのか」「来年度からの推進体制スタートでは遅いのではないか」「スピードの早い現代社会では、長期のゼロ目標は理解が得られにくいので、もう少し町民に受け入れやすいプロセスを示してはどうか」「各地区の推進員などを活用して、生ごみ自家処理の調査をしたい」など、様々な角度からご意見をいただいたほか、先進地上勝町の事例についても、「ゼロ・ウェイストへの反論は出ているか」「ごみ総量や焼却費用は本当に減っているのか？」などの質問があがりました。

「ゼロ・ウェイスト」及び資源化減量化について、ご意見・ご質問がありましたら下記連絡先までお寄せください。

問合せ 環境課 内線451